

第22回国立市財政改革審議会 議事要旨(記録)

開催日時	平成30(2018)年5月29日(火)19:00~20:15
開催場所	国立市役所1階 東臨時事務室
出席委員 (五十音順)	田近栄治会長、山路憲夫副会長 今泉紀子委員、木村淳二委員、原田洋示委員 三辻悠馬委員、柳澤昌三委員、渡辺智之委員
欠席委員	岡本正伸委員
説明員	藤崎政策経営部長、黒澤政策経営課長
市当局 (事務局)	藤崎政策経営部長、黒澤政策経営課長 松原財政係長、佐藤財政係主任
傍聴者	2名
議事	1. 意見書案について 2. その他
配布資料	・ 第21回国立市財政改革審議会 議事要旨(記録) ・ No.22-1 意見書案について

1. 挨拶等

■田近会長より挨拶があった。

2. 意見書案について

■資料No.22-1「意見書案について」に基づき、黒澤政策経営課長より説明があった。

■説明後、委員より以下の意見・質疑等があった。

【田近会長】

◇9 ページを見ると、国立市財政について相当まじめに考えないと厳しいという感想を持った。この試算では平成 37(2025)年度は、経常的な収入から経常的な支出を引いて40億円くらい黒字だが、ここから特別会計への繰出金35億円を負担するため残り4億7,000万円であると。そして、これで計画事業12億円をやるとすれば7億円ショートしてしまう。地方債の借入を増やさないとすれば、財政調整基金を取崩すしかないが、2025年以降高齢化がますます進み、生活保護費20億円程度を筆頭に扶助費も膨らみ続けること、法定内外の繰出金もあり、さらに老朽化した施設の更新費用もかかる、個人市民税は増えそうもないといったことを考えると、本当に大丈夫なのかと思う。

◇そうしたことを踏まえれば、ここ数年黒字だからと言って国立市の財政を楽観視できるものでは決してないということ、この意見書に付け加えたいと思うがいかか。

【柳澤委員】

◇そのことには賛成である。

【田近会長】

◇この中期財政収支見通しを載せたことで、わかりやすくなった。扶助費の伸びや、介護保険や後期高齢の法定内の繰出金を見ても今後市町村の財政は相当大変だということがわかる。

【木村委員】

◇9 ページの表 6 中の平成 37 年度の介護保険と後期高齢者医療の繰出金の数字と、16 ページの表 12 中の平成 37 年度の数字が若干違うがこれはなぜか。

【説明員】

◇表 6 は繰出金のうち一般財源のみを表しており、一方表 12 は国や都の補助金といった特定財源を含んだ数字となっているため、試算条件の欄に記載のとおり若干の乖離が生じている。

【柳澤委員】

◇20 ページの一番上、表 21 をみると、とあるがこれは表 14 の間違いではないか。
◇21 ページの最後、下水道料金について、26 市のうち半分以上が污水处理費の使用料負担率 100%以上となっている。ついては、下から 2 行目、「頼ることのないよう、」の次に「本来、受益者が負担すべき污水处理費については、他市の状況を踏まえ、下水道料金の見直しに取組み、」という文言を入れてほしい。国立市は 97%にとどまっており、あと 3%市民に負担をお願いする余地はあると思う。

【田近会長】

◇11 ページの②特別会計の繰出金でも下水道の繰出金について触れているので、ここにも同様の趣旨の文言を入れたらどうか。

【柳澤委員】

◇26 ページの下から 3 行目、「削減の余地がある」と考えることもできる」とあるのは記述として弱いので、「考えることができる」と「も」を「が」に修正してほしい。議会が決めることではあるが、財政改革審議会としての意思を強く示すことになると思う。

【山路副会長】

◇思い切って「削減の余地がある」で止めたらどうか。

【柳澤委員】

◇その方がなお結構である。

【田近会長】

◇議会に干渉したいということではなくて、他市とのバランス上、コストの節約は可能であるということは重視していく必要がある。削減の余地がある、という書き方であれば判断を含まない記述となるため、ここはそう整理したい。

【渡辺委員】

◇18 ページに記述があるが、3 ページの進捗状況の表について、未実施や一部実施

となっているものが多いので今回の意見書提出に至った、ということ、第1章(2)にも記述を加えた方が良いのでは。

◇3 ページでは特別会計の健全化をという項目はどちらも実施済みとなっているが、これは取組みが不十分であるから個別項目で挙げているという理解で良いか。

【田近会長】

◇そのように捉えている。

【渡辺委員】

◇同じく3 ページで、下水道事業特別会計繰出金の圧縮について、健全化効果額試算の欄が0になっているがこれはどういうことか。

【説明員】

◇こちらの効果額試算は最終答申時のものを用いているが、中間答申後に2億円の健全化を達成していたため、最終答申時は0になっている。

【田近会長】

◇今の説明で理解したが、これだけではわかりにくいので、注釈をつけたらどうか。

【渡辺委員】

◇平成はもう終わるので、西暦だけの表記にできないか。

【山路副会長】

◇西暦に統一するのがわかりやすいが、役所はまだそこまで至っていない。西暦に変えるとなると他の資料も修正する必要がある。

【田近会長】

◇この意見書では平成で表記し、西暦も併記することとしたい。

【渡辺委員】

◇12 ページの説明中、唐突にA欄など出てくるが、表6のA欄という書き方にした方が良いと思う。

◇18 ページの最後、「6項目については時間を割いて議論してきた項目であるため、」という記述だが、これだと審議会の独りよがり聞こえるため、「議論してきた項目であり、」といった程度にとどめるのが良いのでは。

【田近会長】

◇6項目に加えて、2025年以降の課題についても触れてほしい。

◇13 ページの歳入のリスクの順番についてだが、まずは②の個人市民税の減少を先にもってきて、その次に国の制度変更と。ふるさと納税の7,000万円も少し扱いが大きい気がするが潜在的リスクがあるのは間違いないので、市民に知ってもらうという意味では載せる価値がある。

◇それから、個人市民税に加えて法人市民税や固定資産税の話はないが、これも見直しはあるのではないか。

【説明員】

◇一定程度の見直しは立てている。

【田近会長】

- ◇今後それが増えるということは大きな経済成長を見込むということだが、それは考えにくいので、そういったことを追記してほしい。
- ◇第2章の最後に、全体の評価についての記述を入れないとまとまらないのではないかと。歳入と歳出のリスクの分析を踏まえて、2025年度以降は相当のリスクがあるということ盛り込みたい。

【山路副会長】

- ◇それは重要な指摘だと思うが、どの場所に追加するか。

【田近会長】

- ◇17ページの最後に、第2章の(4)として盛り込むのが良いだろう。
- ◇明るい話は何か書けないか。国立市をよくすれば税収が増えるといったような、たとえば富士見台団地の再生を行えば人口が増えるというような。

【説明員】

- ◇人口が増えれば税収が増えるということはあるので、富士見台地域のまちづくりに力を入れている。
- ◇人口推計を出してはいるが、現状では人口はまだ減少に転じておらず、若干増加している。この5月に76,000人を突破したところであり、それに伴い納税義務者数や個人市民税は伸びてきている。

【田近会長】

- ◇そういったことをどこに入れるかは事務局と相談して決めたいと思う。

【渡辺委員】

- ◇今の話は理解できるが、一方で14ページでは生産年齢人口が減るから税収も減っていくという記述になっていて、人口が増えていると書くとしてもそれとの整合性を図る必要があると思う。

【説明員】

- ◇いずれにしろ今後人口減少に転じるということは避けられないと考えている。

【田近会長】

- ◇2025年までの議論をしていたかと思ったら、他の資料では2036年や2066年まで試算しているものもある。

【説明員】

- ◇市の他の計画からデータを引用しているため、年次が揃えられていない。

【田近会長】

- ◇我々の射程としては2025年までとして、中期財政収支見通しのある2025年までと、それ以降の課題ということで整理したらどうか。

【柳澤委員】

- ◇33ページについて、手数料ということで住民票の写しや、印鑑登録証明、戸籍謄本などいろいろあるが、審議会の意見としては、他市の状況を見て、もし国立市が低いということであれば、それらの手数料の見直しに積極的に取り組むというこ

とも入れてほしい。

【山路副会長】

◇それは以前答申を出すときに議論して、当時は他市よりも低い状況にあったが、自転車駐車場やグリーンパスの見直しを行い、他市並みにはなってきたということで、いまさら蒸し返すものでもないと思う。

【田近会長】

◇中央線高架下自転車駐車場は値下げしたのか。

【説明員】

◇ここについては利用率が低いということで、1年間限定ではあるが値下げに踏み切った。

【田近会長】

◇しかしそれで減収になっている、と。

【説明員】

◇ここに示したとおり約120万円程度の減になる見込みである。1年後には500円から1,000円にする予定である。

【田近会長】

◇価格には反応せず、自転車を置く人は置き、置かない人は置かないということか。

【説明員】

◇駅から少し遠いということや、近くにJRの運営する駐輪場ができたということもあり、利用率は伸び悩んでいる。

【田近会長】

◇現実には下げざるを得ないということか。

【説明員】

◇まずは価格を下げて利用者呼び込み、そのまま継続して利用してもらうことを期待した施策である。

【田近会長】

◇値下げしたことで利用者は増えているのか。

【説明員】

◇細かいデータは持ち合わせていないが、現地の様子からは以前より増えていると思う。

【山路副会長】

◇10ページに、人件費について正職員数、嘱託員数、正職員1人あたり年間時間外勤務時間数が類似団体平均、多摩26市平均を上回っているという記述があるが、それについての分析がない。これは、公立保育園の職員が含まれているため多く見えているのであって、保育園の民営化と関連している問題である。

【田近会長】

◇人件費については28ページにも記述があるが、ここに追記するか10ページの方

で言及しておくかということはあると思うが、いずれにしろ、今の書き方は少し荒っぽいように感じる。

◇11 ページのプライマリーバランスについて、これをきっちり黒字にしないと施設の更新費用が捻出できませんよという指標である。近年は黒字が多いようだが、平成 27 年度について大きくマイナスなのはなぜか。

【説明員】

◇国立駅南口複合公共用地の買戻しを行った関係で例年に比べ起債額が大きく膨らみ、そのため基礎的財政収支もマイナスに転じている。

【田近会長】

◇このあたりは技術的なことなのでのちほど事務局と詰めたいと思う。

【三辻委員】

◇27 ページには職員給与について都人事委員会勧告に準じて見直しを行っているところがあるが、3 ページの表 1 に書かれている退職手当や扶養手当の削減、部長職給与の時限的 8%カットとの関連を教えてください。

【説明員】

◇退職手当及び扶養手当については都に準じているため削減は継続しているが、部長職給与削減については現在行っていない。

【三辻委員】

◇そういった、各項目を実施したあとでいつまでやったとかそういった情報はまだ書き込めることがあるのではないか。その方がわかりやすいと思う。

【田近会長】

◇文章表現で言えば、最初と最後だけですます調になっている。

【説明員】

◇中間答申や最終答申に準拠した記述の仕方になっている。

【田近会長】

◇要約版は作った方が良いか。

【山路副会長】

◇市民向けということ考えると 1 枚～2 枚で作った方が良いと思う。

【田近会長】

◇では要約版を作り、市のホームページに載せる際などにも活用することにする。

◇2025 年を過ぎるころから本当に厳しくなってくる可能性がある。繰出金がどこまで増えるか読み切れないというか。

【山路副会長】

◇国保と、介護保険は増えてくるだろうし、扶助費も増えていく。「2025 年以降問題」とも言える。

【田近会長】

◇公共施設の更新費用のこともある。小学校は増えているのか。

【説明員】

◇学校数は小学校 8 校、中学校 3 校で変わらない。

【田近会長】

◇子どもの数は増えているのか。

【説明員】

◇子どもの数は若干減っているが、教室はなかなか減らないという現状である。

【木村委員】

◇国立市民だけれども他市の私立小学校、中学校へ通っているという子も相当数いるのではないか。

◇22 ページについて、公立保育園にフォーカスして書かれているが、他の施設の民営化についての記述はないのか。給食センターや図書館などまだ直営の施設は多い。

【山路副会長】

◇指定管理者制度の見直しのところに内容的には含まれていると理解している。公募を行えばコスト低下が期待できるが、現状はそうはなっておらず、それを問題視している。

【田近会長】

◇項目の並べ方は重要で、今の議論からすれば保育園の民営化の次に指定管理者の話を持ってくるのがいいのかもしれない。

【説明員】

◇給食センターについては、地方自治法上の公の施設に該当しないので、指定管理者制度を導入することができない。そのため、31 ページでも触れているが今年度PFI等導入可能性調査を実施しており、建替えの際には民間活力を活用していく方向で検討している。

【田近会長】

◇指定管理者と PFI は違うのか。

【説明員】

◇どちらも民間活力の活用という点では同じだが、法律上の位置づけが異なる制度となっている。給食センターについては PFI の導入ができないかということで検討をしている。

【柳澤委員】

◇参考までに、財政の事務担当として意見書に入っていた方がやりやすいというようなことはあるか。

【説明員】

◇難しい質問だが、おおむね市の考える財政上の課題は盛り込まれていると考えている。財政担当の立場からは、保育園の民営化を早くしてほしいとか、福祉的視点から現実的には難しいが、国保の赤字繰出金 6 億円がなければどんなに財政運営が楽だったかと考えてしまうこともある。

【田近会長】

◇6項目で事務方サイドの意も汲んだものにもなっているということで理解した。

【山路副会長】

◇財政改革審議会としてやり切れていないと感じるのは扶助費の検証についてだ。
正直やりにくさは感じたし、難しい部分だとは思う。

【田近会長】

◇扶助費と老朽化施設の更新投資の財源を確保する必要があり、2025年問題と結びつけて書き込むことができるか。あるいは扶助費について書こうとしても、書くだけの材料が不足しているか。

【山路副会長】

◇確かに材料はないが、しかし書くだけ書いて、検討課題として明記することにしたかどうか。

【田近会長】

◇ここにある6項目に加えて、2025年問題として扶助費や施設の更新投資についても触れた構成にするのはどうか。

【渡辺委員】

◇第3章は健全化個別項目と書いてあるので、今の話は先ほど会長の提案があった第2章の(4)という形で今後の課題をまとめるところに盛り込んではいかがか。

【田近会長】

◇その方が意見書の流れとして良いと考えるので、第2章の最後にしっかり書くことにしたい。

【原田委員】

◇34ページの下から5行目に「財政改革を検証する第三者機関を改めて設置することも含めて検討するよう要望します」とあるが、常にこういった審議会での検証は続けていく必要があると考えるので、この部分は強調してほしい。

【三辻委員】

◇目次ページにページ数が入っているのと、4ページの右側にもページ数が入ってしまっているので整理してほしい。

【田近会長】

◇資料中の単位の表記についても、千円単位なのか万円単位なのか、そういったことも事務局と相談して決めていきたい。

◇気が付いたことがあれば早めに事務局に知らせてほしい。

◇本日の意見をもとに、私と山路副会長と事務局でとりまとめを行い、提出版を改めて委員のみなさんに確認してもらうということで、基本的には一任していただきたいがよろしいか。

【 一同 】

(異議なし)

3. その他について

■今後会長、副会長と事務局で内容を整理し、6月27日(水)14時に市長へ意見書を提出することとしたい旨の説明と、当日の出席確認について黒澤政策経営課長より説明があった。(柳澤委員出席の意向)

■説明後、会長から挨拶があった。

【田近会長】

◇我々にとってはこれで終わりとなるが、国立市にとってはこれからが大変になってくる。最後に委員のみなさんから一言あれば頂戴したい。

【柳澤委員】

◇6年間の公募委員としてやらせてもらったが、この間、財政的には臨時財政対策債の借入を行わないなど素晴らしい成果が上がっている。正副会長には大変お世話になって、中間答申、最終答申、そしてこの意見書と取りまとめてもらった。この場を借りて心から厚く御礼申し上げたい。

【田近会長】

◇こちらからも、ありがとうございました。これをもって、我々の仕事としては一区切りとさせていただきたい。